

第3回「ひょうご新観光戦略推進会議」議事要旨

日 時：令和7年11月5日（水）15:00～16:30

場 所：兵庫県庁2号館5階 庁議室

出席者：勝野委員、木下委員、高山委員（オンライン）、當谷委員（オンライン）、高田委員（長尾委員の代理出席）、藤原委員、古田委員（座長）、柳川委員、田渕委員（オンライン）

1 議事の要旨

事務局から第1、2回会議の委員意見を踏まえた中間見直しの案を説明後、委員による意見交換を実施

2 知事挨拶

- 本日は、第3回となる「ひょうご新観光戦略推進会議」にご出席いただき、感謝申し上げる。
- 大阪・関西万博が終了し、次のステージに向かうが、ひょうごフィールドパビリオンなど各地域において様々な取組を実施させていただいており、これも皆様にご協力いただいたことを感謝申し上げる。
- 万博期間中は、各地の観光地においてバスの運転手の関係などもあり、団体旅行が少し苦戦した面も数字としては出てくると思うが、今回の補正予算で年明け位からバス旅行に関しての対応をフィールドパビリオンとも連携して実施し、需要をもう一度喚起していきたいと考えている。
- 神戸空港も国際化し、2030年に向けて本格化していくので、それに備えて様々な観光コンテンツ、インバウンド対策を実施することが重要だと考えている。
- 現在、オーバーツーリズムについて日本各地で問題になっており、大阪府や京都府も大変多くの外国人観光客が訪れている。消費喚起という意味では大変いい面もある一方で、電車で大量のスーツケースを持った方がいたり、文化の違いもあり色々な思いを持たれる方がいる。
- 兵庫県としては、オーバーツーリズムは避けるべきであるということは、一つの軸として置いておくべきだと考えており、インバウンドでは日本の文化や習慣をしっかり理解、尊重していただけるコンシャス、意識を持った方に来ていただきたい。
- 旅館や温泉地におけるマナーなどを理解いただいている方には多く来ていただくことが大事であり、こうした観点も議論していくことになると思う。
- 兵庫県は大阪府や京都府と比べるとインバウンドが乗り遅れているとずっと言われているが、日本人の旅行者にとっては、今まで通りゆったりと滞在型で過ごしていただける。オーバーツーリズムではない兵庫に日本人観光客、関西の方をまとめて誘客し来ていただくことも大事な視点だと考えている。
- この2つの視点を軸にして、本戦略の中間見直しをご議論いただきたい。本日の議論も踏まえて来年度以降の予算や観光戦略につなげていきたいので引き続きよろしくお願ひする。

3 座長挨拶

- 本日が3回目の会議となり、今まで委員の皆様の意見がしっかりとまとまり、反映されてきたと感じている。
- 本日も忌憚のないご意見、議論ができればと思うので、皆様もご協力をお願いする。

4 意見交換

【委員】

- ・ あえてポスト SDGs という表現を記載する理由は何か。ポスト SDGs と聞くと SDGs の次の取組と聞こえる部分がある。

【事務局】

- ・ SDGs の取組をいかに地域で主体的に進めていくかということが課題だと認識しており、「兵庫テロワール旅」「フィールドパビリオン」が SDGs を推進するうえで先進的な事例となり先導していく取組と考えているため記載している。

【座長】

- ・ SDGs について、世界的機関でも既にポスト SDGs、Beyond SDGs という概念がある。県民向けに説明する際は、伝わりやすい表現を検討する余地がある。

【委員】

- ・ プラネタリー・ヘルスやリジエネラティブ・ツーリズムなど、聞きなれない言葉が多いと感じる。
- ・ 「兵庫テロワール旅」「フィールドパビリオン」「SDGs」「Beyond SDGs」などの概念や、当戦略の目指すところが伝わりづらくなることを懸念している。
- ・ 資料 9 ページの国際的なサステナブル認証ラベルの取得について、具体的には GSTC を指すと思うが、GSTC が日本に馴染みにくいため JSTS が誕生している。
- ・ 国際認証は毎年、更新料等が必要になるため持続させていくことや、国際認証に関するコンサルティングが可能な専門家は限られることも心配している。
- ・ 資料 11 ページの有償ローカルガイド・スルーガイドのニーズはあるのか。最近の修学旅行では、バスガイドは乗車しなくなっているため、ローカルガイド・スルーガイドは現地で観光客を受け入れて案内することになる。そのため、一定のニーズと収入がなければ担い手がいないのではないか。
- ・ また、有償ローカルガイド・スルーガイドの育成にも専門家が必要になるため、体制面も考慮できているか疑問に感じた。

【事務局】

- ・ 特に海外の富裕層については、観光地の現地で突発的な要望があったときにネットワーク、知識を有しオーダーメイド的に対応できるガイドが必要だと感じている。
- ・ 「兵庫テロワール旅」等の概念がわかりづらい点においても、観光地等の背景や風土を伝えることが重要で、その点においてもオーダーメイド型の案内ができるローカルガイド・スルーガイドは旅行の価値を上げていただく点でも必要であると考えている。
- ・ 短期間で大人数の育成が難しいことは理解しており、通訳案内士など既に専門的な資格を持った方にワンランク上の仕事をしていただき、ニーズをマッチングしていくことを想定している。

【座長】

- ・ 第1回、2回会議の議論の中で、本日の資料に記載されている内容についてニーズがあるという意見が各委員からあった。
- ・ 本戦略の見直し案の全文には、基本的な考え方や言葉の意味は掲載される予定であり、会議資料の内容はかなり抜粋された内容になっている。

- ・ 県民向けに当戦略の考え方や施策をわかりやすく、きめ細やかに伝える表現方法については検討の余地がある。
- ・ 国際認証や JSTS は第 2 回の会議でも取得の重要性、取得に向けた支援も行政で可能な範囲で検討するという議論を踏まえて、戦略に反映された。
- ・

【事務局】

- ・ 第 2 回会議でも今後は国際認証を取得しなければ、インバウンドの方に旅行先や宿泊先として選ばれにくいというデータを共有させていただいた。また、サステナブルツーリズムと聞くと環境配慮を想定しがちだが、経済や文化など地域全体のサステナブルに繋がるという意見をいただいたため反映している。専門用語が多いため、表現方法については検討する。
- ・ 国際認証の取得に向けた支援については、地域や施設に取得のメリットや取得に向けて取り組むべき事項を学んでいただいたうえで、前向きな地域に対してコンサルティングや審査料などへの支援を検討している。
- ・ 国際認証の更新等の継続の課題については、地域や宿泊施設等のブランディングにも関わる。そのため、更新の必要性等含めて前向きな地域や宿泊施設を対象に支援することを想定している。

【座長】

- ・ 国際認証の取得に向けた取組こそが観光地や地域・文化資源、働き方の見直しにつながるということも議論してきたので、そのプロセスの重要性を含めて伝わりやすい記載にするといい。

【委員】

- ・ サステナブルツーリズムの推進にあたっては、兵庫県のマスタープランをサステナブルな内容にしなければ進まない。
- ・ フィールドパビリオン等の商品だけがサステナブルになっても意味がない。

＜通信トラブルにより、以下、文章にて意見を聴取＞

- ・ 知事の言っていた京都・大阪と比較してインバウンドが遅れているということは、少数高付加価値のチャンスがある。今あるリソースを最大限に活用すべきである。
- ・ 神戸空港の使い方について、京都・大阪を目指す人と少数高付加価値を好むターゲットが違うので二通りのシナリオが必要である。
- ・ 兵庫県の本気度が問われる課題である。サステナブルツーリズムの取組みは、フィールドパビリオンだけでなく、姫路城、城崎温泉なども含めた主流観光がサステナブルになる施策が必要である。
- ・ 気候変動は可視化だけでは排出量は減らない、事業者である二次交通、飲食・宿泊施設はコストカット（廃棄物）や新電力への切り替えなどで実質的な削減も構築する戦略が必要となる。
- ・ 観光人材となる学生をはじめ、ガイド養成や旅行会社を対象にしたサステナブルツーリズムを学ぶ機会が必要。旅行会社が理解しない限り、団体旅行はサステナブルツーリズムになることがなく、海外への営業は難しい。
- ・ サステナブルツーリズムの観点から何を具体的にするかの行動計画作成の勉強会（コアメンバー）を実施することを提案する。
- ・ Beyond SDGs という表現だけ使っても意味がなく、観光振興により何がより持続可能になるかの説明が必要になる。
- ・ GSTC に関しては認証取得を目指す補助事業などが必要な一方で、その他大勢が取り組むメリットを理解した上でプロセスを共有する過程が必要になる。

- ・ スルーガイドに関しては、観光庁のロングストーリー事業を参考すると良い。

【委員】

- ・ デジタルツールの活用は、ベンダーからの情報に流されがちになるため注意が必要である。
- ・ 生成AIはもっと活用すべきであり、ホテルの専門人材で例えるとソムリエの役割は生成AIで代替することができる。ワインリストや食事メニュー、お客様の属性情報を読み込まれれば、簡単に組み合わせを提案できる。また、お客様側も生成AIが相談相手になることもある。
- ・ 観光に特化した生成AIの勉強会などは非常に役立つのではないか。

【座長】

- ・ 資料上の取り組み例に「観光に特化した」という表現を追加するなど、検討いただきたい。

【委員】

- ・ 重要な施策ばかりだが、優先順位をつけてはどうか。
- ・ 特にインバウンド施策が重要だが、神戸空港での国際定期便就航後、4・6ヶ月期で約10万人のインバウンドの方が神戸空港を利用されている。
- ・ 知事も挙げられたオーバーツーリズムは避けなければならない。例えば、京都府では伏見稻荷や清水寺などの有名な場所に集中していることが原因である。
- ・ 兵庫県ではフィールドパビリオンという素晴らしい広域コンテンツがあるので、京都などの一部の観光集中ではなく、郊外へ出て観光することが地域の魅力を伝えるいい機会になる。
- ・ その中でも姫路城や神戸牛など、中心コンテンツを据えつつ次のステップにつなげることが、兵庫県に適しており、いい方向へ進むと思う。
- ・ インバウンドについては、兵庫県が姉妹提携している海外の国や地域などを対象に兵庫県の無料周遊バスを案内・運行してはどうか。その原資は、姫路城でも提言された外国人料金など、インバウンドの受け入れ体制整備として活用してはどうか。
- ・ 人材育成については、観光の専門人材を育成する芸術文化観光専門職大学があるので、ローカルガイドもガイドする中で演劇を学んだ方が、その経験を生かし感動を伝えるようなガイドがあつても面白い。
- ・ 観光学部の学生もインターンや観光業のアルバイトなど、実社会の観光業に触れる機会を増やして就職につなげていってはどうか。

【座長】

- ・ 兵庫五国を巡る交通事業者を交えた新たな展開は重要である。
- ・ 観光業界で働く価値を上げることの重要性について貴重なご意見であった。

【委員】

- ・ 当戦略に取り組む施策の方向性が示されているが、公表するかは別として、各施策に紐づく目標を設定する必要があるのではないか。予算を投じ、どの程度の効果・利益を生み、KPIに影響したかを検証すべきではないか。
- ・ 例えば資料8ページ(ア)のコンテンツの販売について記載するのであれば、具体的な販売目標は必要ではないか。
- ・ ガイドの育成についても、何名育成すればどの程度の観光客にアプローチが可能かというところま

で掘り下げれば、ガイドの必要性や価値がより明確になると考える。ガイドの育成は賛成である。

- ・ また、資料 10 ページに「長い時間軸を持ちながら人材の確保・育成を進める」とあるが、長い時間をかけてもいいものか。KPI の達成に向けて取り組む中で、戦略の期間の先を見据えるものについては、どうような時間軸・スケジュールで取り組むのか考えて示した方がいいのではないか。
- ・ 資料 16 ページのツアー造成については、旅行会社に依頼する形を想定しているとのことだが、神戸空港や関空を起点とすることであればぜひ連携していきたい。

【座長】

- ・ 人材育成の長い時間軸というのは、単に時間をかけるという意味ではなく、学生の成長の中で観光人材の確保に向けた教育や機会の提供を指すという認識だがいかがか。
- ・ また、当戦略の中で施策の方向性を示すのは KPI の達成に向けての手段という意味と、今後施策を実現するための予算を確保するという目的もあると理解している。

【事務局】

- ・ その意味と人口減少という構造変化の中で、急激に労働者を増やすことは難しいため、海外の人材や AI の活用など、様々な施策を展開しながら中長期的に対応していきたいという意図があるため、記載の内容については検討する。
- ・ 新規施策を検討する際に、事業ごとに目標値は設定し評価しているので、その点は問題ない。

【委員】

- ・ 神戸空港・関西空港を起点としたツアー造成の話が挙がったが、大阪・京都ではオーバーツーリズムが発生するほど多くの観光客が訪れているため、大阪・京都を起点としたツアー造成についても記載をしてはどうか。

【事務局】

- ・ 資料 5 ページの方向性①にあたる内容かと思うが、我々の意図が伝わりにくく内容になっているので、表現の方法については検討する。

【委員】

- ・ 11 月 1 日に丹波市で全国道の駅シンポジウムを開催し、斎藤知事にもご来場いただいた。シンポジウムの中では、今後の道の駅の在り方や道の駅を核とした地域振興や街づくりを議論した。
- ・ ビジョンや戦略を実現するためには人材や体制など、民間活力を引き出すことが重要になるため、核となる部分に集中的に投資することが重要である。
- ・ 観光関連事業者は観光を通じて地域活性化に取り組むことに理解があるが、一般の方は想像がつきにくいため、そうした方への意識づけが必要である。

【座長】

- ・ 資料の中で、地方における道の駅の役割については記載がないが、地域における観光の役割については、一般の方にも伝わりやすい形で触れてもいいかもしない。

【事務局】

- ・ 観光と物産による相乗効果で物が売れて、現地を訪れたくなるということは十分理解しているので

反映方法については検討する。

【委員】

- ・ 資料 10 ページの人材の確保・育成について、普段から県内や近畿圏の小中高生と接する中で、山陽と山陰、兵庫五国などの違いを知らない生徒・学生が非常に多いため、兵庫県の特徴を知つてもらう機会の提供や教員など教育を提供する側が学ぶ機会を作ることが重要である。
- ・ 資料 16 ページの「交通事業者を交えた県内回遊を促すツーリズムの充実」について、兵庫には大阪・京都にはない雪というコンテンツがあるにも関わらず、誘客に繋がらないのは交通事情の影響が大きいと感じる。
- ・ 例えば、ハチ高原は休日は公共交通機関では行くことができず、インバウンドの方を呼び込むことができないため、県内周遊や交通機関の充実は兵庫県として重要な要素だと考える。
- ・ また、団体旅行ではバスの活用方法にも課題を感じており、DX 化などでより効率的な運用にできればよいと感じている。

【委員】

- ・ 神戸空港を起点とした交通について、ツアーだけでなく周遊バスや「スルッと KANSAI」などを神戸空港を通じて来られる方に PR する必要があるのではないか。一方で、ポートライナーがオーバーツーリズムのような状態と伺うが、周辺住民の方に観光のせいでそのような状態に陥っていると言われないように、ダイヤ改正や増便などの対応を検討いただきたい。
- ・ 観光人材の確保について、「観光産業で働く魅力を発信」という記載があるが、どのように観光産業の魅力を発信するのかが記載されていない。例えば、兵庫県旅館ホテル生活衛生同業組合では女優を起用し Youtube で仲居さんが働く様子を動画にして公開するなど、旅館で働く素晴らしさを発信してきた。兵庫県でも、兵庫県や旅館で働く素晴らしさを発信していってはどうか。
- ・ 本戦略の KPI の 2027 年の目標値について、外国人の延べ宿泊者数が 300 万人、外国人の観光消費単価が 6 万円となっているが、どのようにこの目標を達成するかといった手段の部分が弱く感じる。目標値は倍になっているが、倍にするための施策が見当たらない。

【座長】

- ・ 施策や方向性の具体性がわかるような記載方法・内容、KPI についても目標と施策、根拠が結びつくような表現の方法に関するご意見だった。

【事務局】

- ・ 観光施策、対策を講じるのと同時に、それらを好循環にしていくという前向きな視点も重要である。また、観光に取り組むうえで地域の方への配慮や、サステナブルツーリズムにおいては環境の視点だけではなく経済的な視点も重要である。
- ・ 再生型観光を皆で作って新しい価値を創造していくという前向きな流れができるといい。
- ・ 皆様の意見で共通する部分もあったが、一極集中するとオーバーツーリズムに繋がってしまうため、自律分散という視点や五国の強み、フィールドパビリオンなどを引き続き活用していくことが重要である。
- ・ 二次交通ではよくラストワンマイルと言われるが、デステネーションとしてのラストワンマイル、数マイルが大事になってくると、皆様の意見を伺って感じたところである。
- ・ 行政視点としては、私のミッションでもあるが、県庁内で産業労働部だけが観光を推進するのではなく

なく、部局横断という視点も忘れずに引き続き推進していきたい。

- 私がよく使う表現だが「地域の総合産業としての新しい観光」として、全員が当事者であるという意識も重要である。
- 今年度の万博を経て周辺府県のより一層の連携、単に人が周遊するだけではなく、新しい価値を創出していくという視点で、当戦略の見直し後、新しい連携を進めていければと考える。

【座長総括】

- 全体で共通するが、見直し案の書きぶりに関して何を対象・目標に取り組むのかわかりやすいようにすることが望ましいという意見があった。
- サステナブルツーリズムについて、国際認証は取得だけが目的ではなく、取得までのプロセスや取得に向けて行動に移すことが重要であるということを確認した。
- 生成AIの活用について、もう少し具体的に丁寧な書きぶりにすべきといった意見があった。
- 各施策案について優先順位をつけ、特にインバウンドに対応する部分や、それに付随する神戸空港が関連する施策について、ロジスティックな部分を含めた内容にできないかという意見があった。
- ロジスティックな部分をより具体化して目標を持つことができるかという意見があった。
- KPIの達成に向けて、施策に紐づく成果の確認を実施すること。また、それが施策を一般の方に伝える際にも説得力があるものになり、やる気にもつながるのではないかという意見があった。
- 道の駅を含む地方部を絡めた記載内容の充実に関する意見があった。
- 取組事例について、なぜそれに取組むのかという内容を充実させてはどうかという意見があった。
- また、取組事例の記載の充実とも関連して、生徒・学生への教育は同時に大人の学習にもつながっており、それが各地への愛着を生むきっかけにもなる。こうした教育の重要性や本戦略の意図が伝わりやすいように内容を充実させてはどうかという意見があった。
- 人材確保・育成の経緯やKPI、オーバーツーリズム対応等について、県庁内の部局横断、地域や事業者間の横断連携が非常に重要であることを明記して、県庁内ののみならず県民の皆様や県外、産業界の皆様へ戦略として発信していくべきではないかという意見があった。

【座長提言】

- ひょうご新観光戦略を推進するにあたって、提言があるのでご確認いただきたい。
- この度見直した「ひょうご新観光戦略」に基づき、社会情勢の変化などに応じつつ、持続可能な観光地域づくりに取り組み、目指す姿である「より深く、何度も訪れたい地、HYOGO」を実現するためには、毎年度KPIの達成状況を評価・検証し、課題を洗い出して、事業見直しや新規施策の立案につなげる必要がある。
- あわせて、施策の検討にあたっては、裏打ちとなる観光財源のあり方や推進体制もあわせて議論し、実効性・継続性を担保しなければならない。
- このため、委員の皆様のお願いにもなるが来年度以降も、「ひょうご新観光戦略推進会議」を継続実施することを提言する。

【事務局】

- 改めて本日は委員の皆様にお忙しい中、熱心に議論いただき感謝申し上げる。
- KPIや優先順位など多くのご意見をいただいたが、施策を着実に実施するためには、施策の評価・検証や事業の見直しを行っていくことが重要である。
- このため、古田座長からご提言いただいたように、「ひょうご新観光戦略推進会議」を来年度以降

も継続開催していきたい。

- 委員の皆様、あるいは観光事業者の皆様等と意見交換を行いながら、必要となる施策の検討はもとより、施策を推進する上で非常に重要で必要となる観光財源の確保や、推進体制なども議論していきたい。
- 全体の意見を伺い、地域の総合産業としての観光というお話もあったが、観光は観光だけでは成り立たず、地域活性化そのものであるという視点が特に重要だと感じている。世界の潮流を見ながら、最終的には地域のためだということを住民の皆様や各地域に実感していただくことが重要なので、本戦略の見直しを公表する際には、わかりやすい形でしっかりと施策を実行し、納得感のある形で発信していくことが重要であると考えている。
- 本日いただいた意見をしっかりと反映していきたい。本日は本当にありがとうございました。引き続きご協力をお願いする。
- ・

5 閉会挨拶【事務局】

- 全3回にわたって、古田座長をはじめ委員の皆様には非常に忙しい中、たくさんのご意見をいただき感謝申し上げる。
- 本戦略の出口は非常に重要なと思っており、いただいたご意見や施策をしっかりと来年度以降の予算にも反映し、着実に取り組んでいきたいと考えている。
- 引き続き、ご指導をよろしくお願いする。